

## 2025年 高知県労福協会長新年あいさつ

新年おめでとうございます。皆さま方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃から労福協運動へあたたかいご支援を頂戴していることに対して心から厚く御礼を申し上げます。

さて、様々な物価の高騰は今なお続いている状況にあり、労働者・生活者の暮らしを直撃しています。そのような中で、格差拡大と貧困層の増大はより深刻さを増してきており、子ども食堂やフードバンクに代表されるように、地域に寄り添った直接的な支援や活動が益々求められています。

私たち高知県労福協は、労働団体・事業団体をはじめ会員組織・関係諸団体の皆さんとともに手を携えながら、労働者福祉運動の充実と共助の輪の拡大に向けて、さらなる努力を続けていく所存であります。

「支え合い・助け合い」の重要性をあらためて再確認するとともに、本年においても、高知県労福協の取り組みへの絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げ、新年にあたっての挨拶といたします。



一般社団法人高知県労働者福祉協議会  
会長 池澤 研吉

## 2025年 新年あいさつ

明けましておめでとうございます。

昨年度も、労福協の構成組織の皆様には、「こうち食支援ネット」の諸活動に多大なご支援・ご協力をいただきました。心から感謝を申し上げます。

「こうち食支援ネット」は、多くの方々のお支えをいただきながら、高知県における食支援の充実と食支援の輪の拡大をめざして、フードバンク活動を軸とした様々な活動に取り組んで参りました。その結果、食材提供をいただく企業・団体・個人の数も、提供された食材を活用して様々な支援活動を行う登録団体も着実に増えてきているところです。また、日常的な活動におけるつながりに加え、交流イベントなどでの意見交換を通じて、様々な立場から食支援にかかわる方々の相互の連携も強化されてきていると感じています。

一方で、2024年は設立4年目にして初めての試練に直面した年でもありました。提供いただく食材の量はずっと右肩上がりで増えてきましたが、2024年は全国の食支援団体と同様にその量が大幅に減少しました。その主要な要因は物価高騰にあり、異常気象などによるコメ不足も影響していると考えています。食材を受け取りに来られる団体が増える中の総量の減少ですので、お渡しできるものが少なくなり、それぞれの支援活動に悪影響をもたらすという厳しい状況が生まれています。

この試練を克服することが新しい年2025年の大きな課題です。「幅広い団体・個人が参加する『中間支援のためのネットワーク組織』をNPO法人として立ち上げ、高知の食支援活動を財政面も含めて組織的に支える」という設立の原点に立ち戻る活動が大切であると考えています。現在団体・個人の方々からの寄付を受けやすい条件整備のために、認定NPO法人格を取得の申請を行っているところですが、早期にこれを取得して、会員拡大に向けての企業・団体等への働きかけを強化する中で、新たに食材を提供していただける企業・団体・個人の掘り起こしに精力的に取り組んでいきます。同時に、懸案課題である「県内全域における食支援に取り組む体制づくり」、食材の大量提供への対応が可能となる「大規模食材保管場所（ロジ拠点）の確保」、フードパントリーづくりに向けた支援などを通じた「地域における食支援の拠点（ハブ拠点）づくり」などの課題にも積極的に向き合っていきたいと考えています。

今後とも労福協の皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。本年もよろしくお祈りいたします。



こうち食支援ネット  
理事長 折田 晃一

# 西部労福協第42回研究集会を開催



「支え合い・助け合いで持続可能な地域共生社会を！」  
～地球温暖化対策や循環型社会づくりなどの問題に取り組む～

2024年11月7日香川県高松市「サンポートホール高松」で、中四国9県の地方労福協、事業団体、労働団体78名の参加で開催、高知県労福協より6名が参加しました。

## 講演 I

### 「気候変動へのアクション！世界の潮流と日本の課題」

NHKエンタープライズエグゼクティブプロデューサー、  
日本環境ジャーナリストの会 副会長 堅達 京子 氏



堅達講師はNHKにおいて2007年7月以来、気候変動を伝える番組を制作し、暴走する温暖化に対して警鐘を鳴らすと共に脱炭素革命にも取り組んでおり、日本の課題と私たち一人一人に何ができるか、何をすべきかを問いかけられました。

現在、気候変動の影響で未曾有の台風、豪雨と猛暑で危険にさらされている。これは、CO<sup>2</sup>排出量の増加による気温上昇で人間活動による温暖化が起きており、このまま上昇が続くと更に高温、大雨、干ばつのリスクが高まり海面上昇により日本でも水没の危機が訪れることも想定されると説明されました。また、科学者からは気候変動は人類の幸福と地球の健康に対する脅威であり、この10年間に行う選択や実施する対策が、現在から数千年先まで影響するとの報告や世界の企業で二酸化炭素など温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、その排出量を「実質ゼロ」に抑えるカーボンニュートラルの取り組みについても紹介されました。

最後に気候変動は、もはや「世界の問題」ではなく「あなたの危機」であり、知ることだけではなく、暮らしや行動を

本気で変えることが必要で、マイボトル、エコバッグなどプラスチックを減らし、リユース、リサイクル、シェアリング、フードロス削減等々、今日からできることをやっというところと提起されました。

## 講演 II

### 「脱炭素で強い地域経済を！」

(一社)徳島地域エネルギー 代表 豊岡 和美 氏

徳島県で太陽光、木質バイオマス熱利用の自然エネルギー推進のコンサルティングの業務を通じて21世紀に生き残る経済社会を目指した取り組みが紹介されました。

再生可能エネルギーの普及は地域での過疎、労働力不足、働く場所が無い、資源の枯渇、森林荒廃などの問題解決となり得る。また、再生可能エネルギーを活用することで地域内経済循環、雇用創設など地域活性化に繋がる。具体的な事業として、木質バイオマス熱利用の紹介がされ、森は全国土の68%に及んでおり、大都市は5%前後、この農山村と森林エネルギーの活用は大きな可能性を見出すことができ、森林を伐採して利用する仕組みは、日本のCO<sup>2</sup>排出量削減の目標を達成するため適していること、地域の資源と価値を最大化することにより里山を宝の山に変えることができると説明されました。

各講演を聴き参加者は大変勉強になり、環境問題について、地域や個人でやれることや、今すべき行動は何かについて考える契機になったことと思われま



## 2024年度勤労者の森事業

### 星ふるヴィレッジTENGUプラネタリウムと天狗高原ミニトレッキング



四国の山の木々が色づきはじめるころ、2024年度勤労者の森事業「星ふるヴィレッジTENGUプラネタリウムと天狗高原ミニトレッキング」が、11月9日(土)高岡郡津野町にて開催しました。今回は、スタッフを含め計27名が参加し、マイクロバスに揺られながら標高1,485mある天狗高原の駐車場に到着しました。はじめに、勤労者の森実行委員会事務局の井上氏から挨拶およびミニトレッキングの説明がありました。

さあ、いよいよミニトレッキングがスタートし、山道へ続く木製チップが敷かれた道を進み、ウォーキングコースを進むと、なかなかの険しい山道(個人的な意見ですが!)で、往復1時間半ぐらいをかけて天狗の森をめざします。途中、見晴らしのいい開けた場所があり、天狗高原から四国の山々を見下ろす風景は、それは壮観な眺めで雄大な自然を感じることが出来ました。昼食は、天狗荘のステーキ丼やカツカレーを美味しくいただき、午後からは、『星ふるヴィレッジTENGUプラネタリウム』を鑑賞しました。投影された天井は瞬く間に、星々が織りなす神秘的な世界へとストーリーが展開し、何万年、何億年前の光が今の瞬間に輝いて見える星々にうつりししながら、臨場感あふれる宇宙を体験できました。

今年度も、自然の豊かさや自然環境の問題など、私たちの心に響かせてくれる体験となりました。また、勤労者の森事業のスタッフや参加者の皆さまのご協力のもと、無事に終了することができ、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 高校生セミナー開催

### 宿毛高等学校定時制「労働セミナー」

11月11日（月）、高知県立宿毛高等学校にて、定時制生徒と教職員21名で「労働セミナー」を開催しました。

講師は市川稔道氏を迎え、45分の講義で、高知県労福協作成の『働くときに知っちょきたいこと』のテキストを資料として説明しました。

セミナーの内容は、社会人として知っておくべき最低限のマナー、採用面接時の就職差別となる項目、ブラック企業、ブラックバイト、職場でのハラスメントについて、詳しく説明し、「困った時には、我慢したり悩みを1人で抱え込まずに誰かを頼る事」困った時の相談先について説明しました。

質疑応答では就職する前にどのような方法で「ブラック企業」を見分けるのか、などの質問や困った時の対処として事実の記録や証拠となり得るものの保管等、詳細について丁寧に回答がされました。



## 高知市社会福祉協議会「第1回労働セミナー」

2024年12月12日（木）高知市社会福祉協議会にて、職員を含め参加者12名で労働セミナーを開催しました。講師には、連合高知事務局長の市川稔道氏を迎え、高知県労福協が発行する『働く人のためのハンドブック』から抜粋された箇所を3部構成にし、約30分の講座を行いました。

第1回目は、ハンドブック第1章“働く前に知っておきたいこと”をテーマに、知っておくべき最低限のマナーとして、「時間厳守・自覚と責任・ルール」や「ハウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）」などの話から始まりました。そのなかでも「面接時で聞かれても答えなくてよい14の質問」では、本籍地や家族状況（職業・学歴・病歴・資産など）など、仕事に関係のない話を聞いてくる企業等の事例をふまえながら、今後の就職活動に活かせる話もありました。質疑応答では、実際に参加者が感じた男女雇用に対する問題の質問があり、市川氏からは『男女雇用機会均等法』について解りやすく説明がありました。話の合間には、「就職活動で困ったことがあったら、連合高知や市社協の職員の方に相談してくださいね。」と声掛けもありました。



### 『男女雇用機会均等法』とは？

働く人に対して性別、婚姻、妊娠・出産などを理由に差別することを禁止するほか、事業主にセクシュアルハラスメント、妊娠・出産に関するハラスメントへの対策を義務付けることなどを定めた法律です。

正式名称は、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」です。

高知県労福協が行う「労働セミナー」は、労働法を熟知した専門家を講師に開催しています。労働法は、労働者を「保護」するための法律でもあります。知って得することばかりの内容になっていますので、セミナーを開催されたい方は、高知県労福協事務局までご連絡ください。（▶TEL088-824-3583）

# 労働セミナー「アンケート調査！」

高知県労福協が主催する『労働セミナー』の参加者にアンケートをお願いしました！

下記の調査内容は、2024年6月24日（月）高知県立高知国際高等学校の生徒222名（3年生）からのアンケートの回答をまとめてみました。

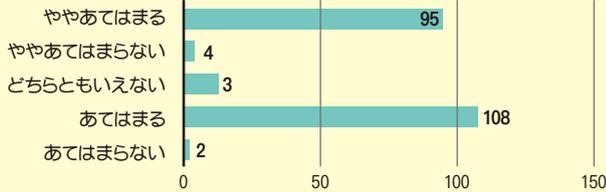
## アンケート内容

今回の学習を通じて自分の評価を記入してください。  
※5段階評価

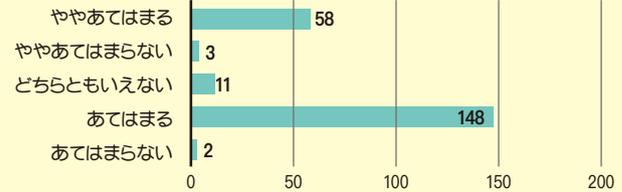
- 1 興味・関心をもって参加することができた。
- 2 自分にとってためになる（役に立つ）内容であった。
- 3 今後の行動化に向けての意欲を高めることができた。
- 4 相手の立場に立って考え、行動する意識を高めることができた。
- 5 授業のねらいを自分なりに理解することができた。
- 6 新しい気付きや発見があった。



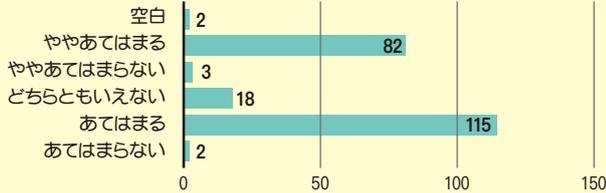
### 1 興味・関心を持って参加することができた



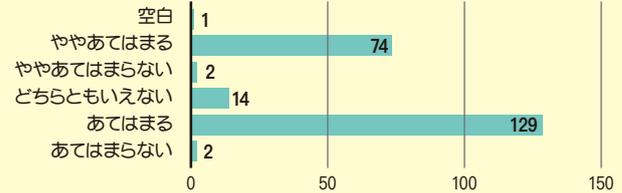
### 2 自分にとってためになる（役に立つ）内容であった



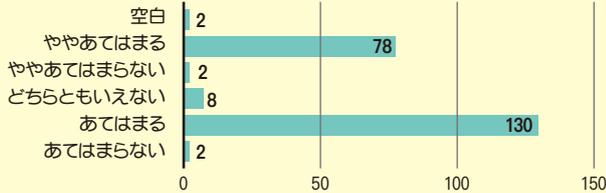
### 3 今後の行動化に向けての意欲を高めることができた



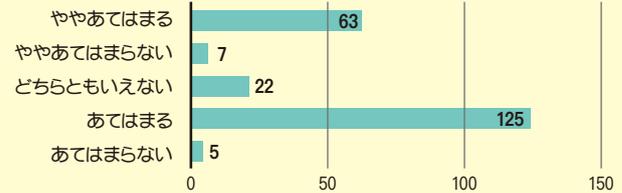
### 4 相手の立場に立って考え、行動する意識を高めることができた



### 5 授業のねらいを自分なりに理解することができた



### 6 新しい気付きや発見があった



## 働くときに知っちょきたいこと! 『労働ハンドブック』

これから就職やアルバイトを考えている方や、今の働き方を見直したい方などを対象に、労働法等の基礎知識を分かりやすく解説する冊子となっております。「求人広告と時給が違う」「残業代が払われない」など、よくあるトラブルなどの対処方法も掲載していますので、『働く人のためのハンドブック』をご希望の方は高知県労福協までご連絡ください。

▶TEL 088-824-3583

無料配布のお知らせ

### 働く人のためのハンドブック『編集後記』抜粋

心が折れそうなときはあなたの支えになってくれる人や好きなモノを思い浮かべてみてください。「努力・根気・ヤル気」を少しわきに置いて頑張った自分を思いっきり褒めて、ご褒美をあげてください。うまくいかないときはその方法は違うよと教えてくれているサインかもしれませんよ。いつも遠慮ばかりしているなら人に甘えてみたら以外と心地よくて身も心もなんだか楽になってほかほかになりますよ。

このハンドブックがあなたのチカラになりますように



団体名(氏名)			
住所			
TEL		部数	
活用内容			



